

神戸のディテール

Detail of KOBE 〈45〉

石阪 春生

写真／杉尾友士郎





andré courrèges



フリバッグ(7色)
¥11,000



ハンドバッグ(ズック製)
¥27,000 ¥33,000 ¥35,000 各種

その洗練された感覚に、いっそうの冴えをみせて
'77春・夏のクレージュが揃いました。

神戸アロード
クレージュ・サノヘ
PHONE 331-1952

ファッション
素晴らしい季節の訪れ

あなたの輝きのとき

ときめくエレガンスをお届けする

さんちか ムラタ

シルクジョーゼットのように

軽やかな 春の日に一。



真珠・貴金属
毛皮・婦人服

ムラタ

さんちかレディスタウン

(神戸市生田区三宮町1丁目1)

☎(078) 391-3886

本 社

(神戸市生田区元町通6丁目35の2明邦ビル)

☎(078) 341-8041

モデル / 林あや子

どこまで素敵になるつもり。

MRS
KNIT
FASHION



光をひとりじめ。
はすんで、はすんで。

光にうるおいを感じたら、もう春。風
と木の葉のハーモニーがのどかで
リザ・サロンのスプリング・コレクションも
今がピーク。

この春の装い、スポーティーエレガンス
でコーディネート。心も軽やかに、さあ、
お出かけになりませんか。

* 素敵なカタログをご用意しております。

三宮センタープラザ3階 FASHION PARK

リザ・サロン 神戸本店

センタープラザ	さんプラザ
4F 駐車場	
3F	LIZA
2F	
1F	

- さんプラザ西側。
- お車で越しの方は、4F駐車場をご利用ください。



トータルコーディネートサロン

LIZA

PRESENTED BY WORLD CO. LTD

神戸・本店 / 神戸市生田区三宮町1-17-4
〒650 ☎078(391) 6806代

- 営業時間/A.M.11:00~P.M.8:00
- 毎月才3月曜日定休

3月 目次

これは神戸の...
あな...
神戸を...
これは神戸の子の...です。

FUJI

125

FUJI

表紙／小磯良平
セカンドカバー／山本文彦

9 第六回ブルーメール賞受賞者

美術部門／郷 相和 文学部門／秋吉 好

音楽部門／中村茂隆 古典芸能部門／藤岡緑寿郎

神戸の中の情景 15／文・華木一夫／絵・土岐国彦

神戸のディテール 16／石坂春生／カメラ・杉尾友士郎

わたしの意見／小笠原 祐

私の交友録 27／活動狂 郎 清

連載 28 神戸女学院と神戸／岡本達彦

ある集いの足あと／国際ソロプチミスト神戸

インタビュ／兼高かおる／美女、世界を翔ける

技術ジャーナル 116／諸岡博樹

第六回ブルーメール賞 受賞者発表会

美術部門／赤根和生／乾 由明 伊藤 誠／増田 洋

文学部門／小島輝正／森川達也／松原新一

音楽部門／吉村一夫／柴田 仁／小石忠男

古典芸能部門／沼 洲南／佐野通英 富田昭三

キャンペーン／フアッション都市神戸を考える 20

地域と結びついた百貨店

宮本龜子／藤原順子／北尾信一／山田泰一／本間基之

フアッションスポット

ある集／国際ソロプチミスト神戸

アンド神戸 19／野坂昭如／カメラ・杉尾友士郎

神戸の催し物と案内 3月

人間模様 第十四回／海野光子／文・重森 守

動物園飼育日記 60／亀井一成

ずいそう／冷かし歓迎／小倉弘子／え・小西保之

ずいそう／権名さんとの思い出／田串 新／え・小西保文

神戸を福社の町に 39／小畑延子

神戸の集いから

K・F・S ニュース

フアッションレポート 21／パスル／浦野敏彦

かわいそうなアリス 18／岡田 淳

淀島立見席 14／淀川長治

女性百景 56／堀川 董

びつとん

神戸百貨会大より

ボケッジョナル

ひとり歩きのためのヨーロッパの美術路 終

ウィーンのワリムト／伊藤 誠

連載小説 島之内ブルース 神戸文学賞受賞作品

田串 新／絵・中西 陽

トーク&トーク

MODE MARCHEN 70／藤原順子

海船港／初入港・ソ連の豪華船「レオニド・ソビノフ号」

カメラ・米田定蔵／藤原保之／機本英男

目次写真・構成／丸本 耕

13A

13B

14

14A

14B

15

15A

15B

16

神戸で歩みつづけて60年

大正六年創業以来、特製石窯による高級欧風パンは、神戸の味として親しまれております。伝統を受継いだ職人達の手によって一つ一つ丹念に作られた伝統ある深い味わいをぜひ、一度ご賞味ください。

大正六年三月
神戸市生田区三宮町一丁目58に製パン所を譲り受け開業。



大正九年八月

神戸市生田区下山手通二丁目33にて仏人チードン・パール氏経営の店舗を買収し、設備、得意先、技術を継承して屋号をフランクパンヤ・ドンバルとして前記三宮店と併せて製造販売を開始。

大正十三年十月

神戸市生田区北長狭通二丁目一に、工場並びに店舗を新設し、洋菓子の製造販売も併せて開始。前記三宮店、下山手工場を廃止する。

昭和三年四月

大阪市東淀川区長柄西通三丁目95に大阪工場を設ける。

昭和六年四月

神戸本店の工場、宿舍、店舗を増改築し、喫茶部を併設、営業。

昭和九年四月

京都市下京区河原町松原上ル清水町21に京都工場を設ける。

昭和十六年十二月

パン、米穀の配給制のための私企業整備に伴ない神戸本店の営業は統制組合に吸収される。

昭和十八年五月

食糧営団が設立せられ全面的に吸収されたため



大阪、京都工場も廃止。
昭和二十年六月
神戸空襲のため、工場など全建物焼失
昭和二十一年七月
喫茶ドンバルとして旧住所に再開する
昭和二十二年九月
工場を再建してパン委託加工を始める
昭和二十三年四月
店舗を増改築して、洋菓子の製造を再開し、レストラン部を併設、営業を始める。
昭和二十七年六月
小麦粉の統制が解かれ、本格的にパンの製造を再開する。
昭和三十六年十一月
道路整備計画もあり、神戸市灘区備後町二丁目二の四に工場を移転する。
昭和五十一年七月
本社及び工場を現住所に増改築着工

昭和五十一年十月
新社屋完成。
昭和五十二年三月
創業六十周年を迎える。

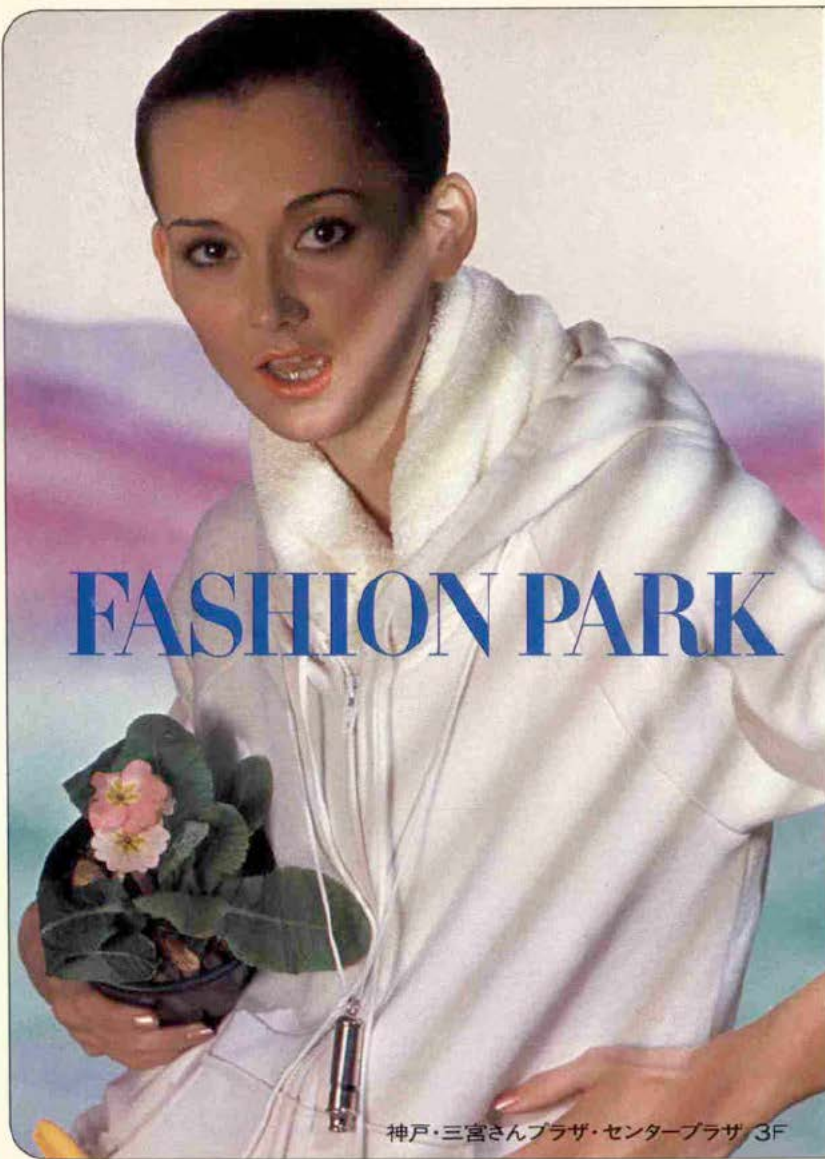
工場



本社屋

60余年の歴史が伝える深い味わい
ドンバル

本店 灘区備後町二丁目二の四
☎八四一〇四三一(代)
そうこう神戸店 地下一階食品売場
三越大阪店 一階食品売場



25th, March
FASHION PARK
1st Anniversary

19日～27日
1周年フェア開催

FASHION PARK

- トータルコーディネートサロン・LIZA
- 婦人服飾・東京屋
- 舶来靴専門店・Pia
- アクセサリー雑貨・ルイ・ミッシェル
- ジーンズショップ・AOYAMA EIKO
- COLLEGE SHOP・CABIN
- 婦人ブティック・ラ・ガミヌリー
- 婦人靴・東京銀座 ダイアナ
- ヤング&アダルトファッション・ルベール
- ヤングアダルトファッション・ランプ
- ファッションバッグ・アクセサリー・美呂
- 婦人服・原宿CAN
- 婦人服・銀座ゲルラン
- レディース・ファッション・新宿高野
- おしゃれな靴の店・BON フカヤ
- コンテンポラリーファッション・ザ・コレクション
- レディースファッション・東京ギンザ三愛

神戸・三宮さんプラザ・センタープラザ 3F

一枚の絵

小磯良平画伯の女

小磯画伯が決して手離そうとされなかった秘蔵の絵。これを無理をいって譲り受けることが出来たのはこの上もない喜びである。部屋の雰囲気にもびったり合うこの作品は私に心の安らぎを与えてくれる。

乾 豊彦 (乾汽船株式会社社長)

いつも洋服をお楽しみでお召し下される
ことを私は心より喜んでいます。店主
ジュン洋服店 生田区中山手通3-65
078-391-0779

☆私の意見

教育に

本来の厳しさを

小笠原 暁

〈兵庫県教育長〉



現代はモノセックスの時代だといわれています。男性の女性化、女性の男性化という現象は若い人だけでなく、中年にまで精神的に進行しているようです。特に子供にとって母親的な感覚をもったもの分りのいい父親なり教師なりが増えて来ました。

ところが今こそ頑固一徹というか、雷親爺的というか、厳しさをもった父親なり教師が必要だと思っています。子供にしても、もの分りのいい父親や教師を本当に求めているかというところじゃなくて、モノセックス化した親爺や教師に抵抗をもっているのじゃないですか。

子供が転んでしまう前に手を差しのべる教師や親は、子供の自立意識をそこなってしまう。困ったときには誰かが助けてくれるという、他人に頼る人間にしてみたいそれは強いては日本人の民族としての活力を奪ってしまうことになりかねないですね。かわいそうだという気持ちから本当の教育は生まれませんね。

戦前の教育がすべて否定されてしまったので、そのなかにあった厳しさも否定されて、過保護教育になってしまっていますね。それでも昨年ぐらいから教育を見直すという気運が起って来ているようです。今のままだとイタリアやイギリスの後を追って活力のない国民となる可能性があるのです、それを喰い止めようという気運は出て来れていますね。

また、家庭教育のもつ役割の重大さをもっと認識して欲しいと思います。小・中・高と連携し、系統だった教育はもちろん必要ですが、教育は何も学校だけで行うわけではない。学校教育には限りがあります。教師も社会もそれを無限であるかのように錯覚してしまふ。これは困ったことです。学校と社会と家庭との連携ではじめて全人的な教育が可能となるわけです。

教育のなかに厳しさを——これを今年のキャッチフレーズにしたいですね。家庭教育における厳しさから明日の兵庫っ子を育てる運動というものを提唱したいと思います。

(談)



★月刊「神戸っ子」16周年記念文化賞

ブルー・メール賞

第6回受賞者発表 △副賞各部門拾万円▽

郷土を愛する人々の雑誌、月刊「神戸っ子」はこの三月号で十六周年を迎えました。これもひとえに皆さまの暖かいご支援の賜と感謝いたしております。

さて、月刊「神戸っ子」では、神戸の文化を進めるため、ここに第六回「ブルー・メール賞」（青い海）を設定し、各部門別に選考座談会を行ったうえ、左記の四人の方々に賞（彫刻家新谷琇紀氏による海の女神のブロンズ像）をお贈りすることになりました。また、副賞には地元企業のご協力により、各部門の受賞者に十万円が授与できることに

なり、心からお礼申し上げます。
地域社会の中から世界に通じる文化を育みたく、力いっぱい努力してまいりたいと思います。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

美術部門

選考委員

赤根和生・乾 由明・伊藤 誠・増田 洋



鄭 相和

△絵 画▽

鄭相和は韓国から来日以來八年間ずっと神戸に定住して制作を続けている。絵の具を塗っては剥すという過程から生まれた堅牢な抽象構成は早くから注目されていたが、特に近年の白を基調にした仕事は密度のあるマチエールの中に色彩が微妙な諧和を示してきわめてユニークな画面をつくりあげている。（乾）

文学部門

選考委員

小島輝正・森川達也・松原新一



秋 吉 好

△「純」同人▽

秋吉好は、雑誌「純」の同人の一人である。知り合って五年くらいになるが、創作にあたってはたえず新しいところに熱意を燃やしている人として心のこつてきた作家である。決して器用な人ではない。だが、文体が安定した時、飛躍的な進歩を示す人ではないかと期待しているのである。（松原）

音楽部門



中村 茂隆

〈神戸大学助教授〉

選考委員 吉村一夫・柴田 仁・小石忠男

中村茂隆は、去年の夏、かたおかしろう氏の台本で合唱絵草子「久米仙人」を創作発表した。日本人なら誰でもが知っているユーモラスな人物を主題にした合唱曲で、和楽器も使い、合唱の新しい分野への道を示したようだ。その他、神戸の音楽諸分野での中村の活躍は、音楽の神戸っ子にふさわしい。(柴田)

古典芸能部門



藤間 緑寿郎

〈邦舞家〉

選考委員 沼 艸雨・佐野漣箕・富田順三

受賞の対象は昨年一月第二回リサイタルの「鏡獅子」である。この古典の大曲で受賞したことは緑寿郎君の今後の舞踊生活に深い意義をもつ。古典には多くの舞踊秘密がふくまれているから少々若さで突っ走った点はあったがよく動いたことは立派でこれぞ未来への期待と可能性が実証されたことになる。(佐野)

★副賞協力 会社ご紹介

株式会社 淡路屋	島文工業株式会社
財団法人 井植記念会	角南商事株式会社
石野証券株式会社	株式会社 そごう神戸店
ウシオ工業株式会社	株式会社 大丸神戸店
オールスタイル株式会社	株式会社 太陽神戸銀行
カネボウベルエイシー(株)	田崎真珠株式会社
カワノ株式会社	バンドー化学株式会社
株式会社 神戸製鋼所	株式会社 ワールド

△五十音順▽

★選考についての各部門座談会を本誌四六頁より掲載いたしております。

□私の交友録△終▽

活動狂

原 清
△朝日放送社長▽



▲プログラム文学華やかになりし頃の映画館週報

左から菊水館（大正8年）牛
牛マ俱樂部（大正12年）、第一朝
日館（大正9年）、松竹座（昭和
3年）

▲関東大震災の余波で神戸に映画雑誌が相次ぎ誕生。筈見恒夫らが心血注いだ「映画生活」近代映画の創刊号と大正15年創刊の「キネマ・ニュース」8号

松竹座発行の「松竹座ニュース」のく喫煙室>の欄に掲載された筆者の稿。

「近代映画」創刊号（昭和2年10月）に掲載された筆者の稿。

大正時代から昭和のはじめにかけて、映画館のプログラムに映画批評や論文を載せることが流行した。映画を観るだけでは満足し切れなくなった活動狂の投書や寄稿で論議花咲くプログラム。その名も「××週報」と銘打って、毎週上映映画が替るごとに編集者が智恵をしばったものである。活動狂もここに名が出る常連になると一人前、当時流行のプロレタリア文学の向うをはって、プログラム文学と呼称した。

このプログラム文学がとりもつ縁でアマチュア活動狂からプロフェッショナルに転入していった人がかなり多い。私の知っているのは、神谷正太郎、柳三郎、水町青磁、中西一夫、佐々好一、杉原保、浅野秀治、村上久雄、筈見恒夫……筈見はもともと東京人だったが大正十五年ごろひょっこり神戸に現われたのである。当時の活動狂仲間、喜田一雄、宮森喜久二の二人が私に紹介した。「ボク松本英一です。よろしく」紺がすり着流しの色白の青年、というより少年がピョコンと頭を下げた。もつとも私自身もそのころは関西学院高商部一年生になったばかりの金ポタン少年である。「あれ？本名は英一ですか？」と私がきき返したのも道理、当時の彼はペンネーム松本潤之介または小川甫を使っていた。東京では活弁の見習までやったが、家庭の事情もあって父の住む神戸に来たというのだが、実際は関東大震災で映画関係の諸会社がほとんど神戸に移転して来たので、それを追ったの西下だった。足かけ四年間の彼の神戸生活はすさまじいものだった。歯切れのいい江戸弁でまくり立てながら次から次へと仕事を果たさせていった。まず昭和二年、私たち活動狂十二人のサムライを糾合して、ハイプロウな映画雑誌「近代映画」を創刊。そのときの顔ぶれは亀田啓、喜田一雄、岸松雄、久保田たつを、宮森喜久二、原紀夜詩、村上久雄、中西一夫、成島康介、新川亮介、龍野潤と当時の最高スタッフを揃え、彼自らも初めてペンネームを筈見恒夫一本に統一して陣頭に立ち執筆、編集に異彩を放った。次いで京阪神の映画実務者と

映画記者たち合計一六八人を動員してシネアスト倶楽部を結成、その機関誌として「映画生活」を創刊した。この企画は大センセーションを起こし、斯界は大きな光明を輝かせたのだが、毎月一円也の会費納入が計画通り集まらぬうえ、震災の傷痕癒えて諸会社が東京復帰を開始、管見自身もキネマ・ニュース東京支社長として帰京することになり、惜しくも第六号で廃刊となった。幸い戦災にも焼失せず、いま私の手許に残っている「近代映画」「映画生活」など、彼の若き日の心血をそそいだ創刊号。そのページを繰りながら彼の遺児有弘がテレビの画面から父親そっくりの顔で映画紹介をやっているのを見ると、そぞろ五十年の年輪が身に沁む思いである。

話は戻るが、昔の映画観賞には今の人たちには想像もつかぬような「くらやみのスター」たちが必要だった。

それは活動写真弁士——略して活弁。のちには説明者、解説者などと勿体ぶった呼び名に変ったが、彼らが七五調の美声で映画を進行させる技芸には爆発的な人気が集めた。なにしろ映画に声も音もついていない時代の説明役、というより映画のムードを盛り上げる演出家である。映画を生かすも殺すも弁士のノド一つ、特に悲恋物語の映画などでは彼らの美声と名調子が満場の子女の紅涙をしばらせた。暗い場内、スクリーンの下手に弁士の名前が書かれた表示灯があり、人気弁士の名前にスイッチが入るとワッーと場内に歓声と拍手が沸いた。楽屋へはファンが押しかけ、後援会が作られ、プレゼントが絶えなかった。したがって高級封切館ほど一流弁士を集め花形弁士となるフィルムへの借り賃よりも高い出演料が支払われた。当時神戸の湊川新開地で活躍していたのは里見義郎、小島昌一郎、泉天嶺、岡指月、東夢外、薄田畔曉、堀口美朗、大島弘浪、いずれも文学青年あがりが多かった。というのは、上映映画についてくる台本は極めて簡略、外国映画の場合なども字幕の翻訳がならべてある程度だから映画の進行スピードに合わせて加減しなければならぬ。そのためには、その映画の原作を勉強

したり、文学的表現を考えたり、それにマイクのない時代だから声も鍛えねばならぬ。私が特に親しくしていた里見義郎、小島昌一郎、大島弘浪らも派手な生活の半面、人知れず早朝、布引滝や再度山の裏山へ出かけ岩山や樹林を相手に大声を出してのどの鍛練を怠らなかつた。弁士の変り種として当時話題をまいたのは、関西学院の三年先輩で、私たちと一緒に映画研究会をやっていた星子正寿。彼は学生時代から弁士になり、月岡晃郎という芸名で神戸朝日館の舞台で熱弁をふるっていた。後にその美声を買われてNHKアナになったが功成り名とげて今は郷里宮崎市に帰り関学同窓会支部を結成、同窓生の世話に生き甲斐を感じているという。趣味と実益を兼ねるというが、弁士たちは文筆活動も熱心だった。東京の徳川夢声たちが説明者仲間を動員して文芸誌「声陣」を発行したのに対し、関西では私たちプログラム文学グループも加え説明者関西陣同人として機関誌「映画市場」を発行して氣勢をあげた。しかし、世は無情、映画がトッキーとなり、一転、失業と失意のどん底に落された彼らには、続いて戦争、戦禍の追い討ちで、もはや昔の夢は戻るべくもなかった。

昭和二十六年、私たちが民間放送をはじめたころのある日、里見義郎がひょっこり私を訪ねて来た。髪は乱れ齒は欠け、往年の風爽たる花形弁士の面影は求むべくもない。聞けば花形時代にかせいだ金で大阪市内外の映画館を数館買いとった。弁士廃業後はその家賃で暮らしていたが、それが戦災で全部焼失、敷地を買っていなかったために文子通り元も子も無くしてしまった。加うるに家庭の不調……。何とか昔の名調子をラジオで放送させてもらえないだろうか、と使い古した説明台本が何冊か差し出された。私は、往年の花やかだった彼の身辺を思い返して胸がつまった。数回回って彼の熱願を何とか実現しようと試みたが、結局、彼の名調子は放送番組にならないまま彼との接触もなくなってしまう。映画物語以上に物哀しい私の交友録のラスト・シーンである。

□神戸女学院と神戸△2▽

山本通の婦人宣教師たち

岡 本 道 雄 △神戸女学院院長▽

え・伊藤 慶之助



明治8年開校当時の建物「南金」ソール第四代院長(左)
とブラウン第三代院長

生田区山本通、現在の神港高校の校庭の片隅に一つの石の碑が置かれている。小さい碑なので見過ごされることも多いが、よく見れば表通りから「神戸女学院創設の地」の文字が読める筈である。明治八年から昭和八年まで五十八年間の神戸女学院の古巣であり、魂の故郷でもある。今日では昔の建物は何一つ残っておらず、往時をしのぶすがもないが、創立当初の木造二階建の西洋館にはじまって、後に建った尖塔のある音楽館、円塔のある理科学館、またオランダ風赤れんが造りの大講堂などが当時の市民の目を楽しませたらしい。

ミツシヨンスクールであった神戸女学院には当然のことながら多くの宣教師たちがいた。そしてこの山本通のキャンパスは歴代の校長、院長またその協力者として働いた多くの婦人宣教師たちの夢を託する場所であったのである。

創立者タルカット、ダッドレーの後を継いだクラークソンは病弱のため僅か三年しか在任しなかったが、彼女もまた神戸女学院に一つの方向づけを与えた人である。創立者たちの残した遺産は「伝道」ということであり、信仰者の養成であった。クラークソン校長の関心は、むしろ「高度の知的教育」に向かっていた。意欲的な学科課程の改革、在学年限の引き上げ、「神戸ホーム」から

「神戸英和女学校」への校名の変更等、彼女が目指したのは、当時としては最高の知的水準をもつ「女学校」の確立だったのである。

明治十五年に来日したブラウン以後、神戸女学院にやってくる婦人宣教師たちは、若くて活気のあるアメリカのカレッジ卒業生たちであった。これは神戸女学院にとって大変幸せなことであった。

というのは、レディファーストの国アメリカでも女性の本格的な大学教育は当時ようやく始まったばかりであり、その初期の卒業生であった彼女たちは、女性の知的向上に重大な関心と情熱を抱いていたからである。既にアメリカではいくつかの女子大学も設立されていたが、そのモデルになったのはマサチューセッツのマウント・ホリヨーク・カレッジであった。そしてまたその創立者メリー・ライオンのピュリタンの香気あふる人柄とそのすぐれた教育理念は神戸女学院の若き宣教師たちにも大きな宗教的、教育的感化を与えていたからである。神戸における最初の宣教師グリーンは、「神戸女学院がマウント・ホリヨークタイプのカレッジに発することを望んでいた」といわれるが、これは神戸女学院に働く宣教師たちにも共通の思いであっただろう。

山本通のキャンパスで、クラークソンに続いて校長及び院長として女学院の責任をとるのは、ブラウン、ソール、デフォレストである。ブラウンとソールはカレッジ時代からの親しい友であり、若い二人は一年違いに来日して約十年間緊密な協力を展開する。

ブラウンが病で帰国した後はソールが十六年間院長となり、大正四年デフォレストに院長を譲った後もソールは昭和四年まで名誉院長として女学院にとどまる。そしてこのブラウン、ソールの時代は神戸女学院の内的充実の時であり、デフォレストの時代は飛躍発展の時であったと言われている。

ブラウン、ソールは共に敬虔なピュリタンであり、祈りの人であった。宗教教育は最も重視され、グリーン

の創立した神戸教会（もとの摂津第一公会）は「神戸ホーム」に引き続いて、生徒たちの信仰的修練や奉仕の場であった。しかし一方では彼女たちがマウント・ホリヨーク出身の医学博士ホルブルックらの協力の下に強力に推し進めようとしたのは、関西はじめての女子高等教育計画であった。明治十八年から始まる高等科計画、明治二十七年の「神戸女学院」（英語ではコーベ・カレッジ）への校名変更、明治四十二年の四年制専門部の設置認可等——こうした一連の努力にみられるのは、神戸女学院の教育をアメリカのカレッジ程度にまで引き上げることであった。女性には家事、裁縫の教育だけで十分であり、知的教育は身体に害があるとさえ考えられていた当時にあって、こうした試みは画期的なことであり開明的な開港場神戸だからこそ可能であったとも言えるのである。

ブラウン校長は日本語に巧みであり、日本人の意見をよく聞く人であったらしい。また汽車はわざわざ「下等車」にのり、生徒の学資を援けたというエピソードも残っている。しかし当時は、欧化主義から国家主義への移行期であり、神戸女学院を「西洋かぶれ」として批判する声も強まっていた。ブラウン女史が心労の余り病気になる、帰国の止むなきにいたったのも、ここらに原因があったらしい。

ソール院長の努力は、日本人の生活様式を尊重し「西洋かぶれ」の誤解を解くと共に、一方では世評に打ち克つための内面性の確立と愛校心の連帯の環を結ぶことに向けられた。

ソール院長の人力車による生徒宅の訪問や「同窓生訪問」は有名であり、彼女は週二回をこれにあて、教え子の安否を問い、信仰生活を励ました。当時の卒業生の中に今尚ソール院長を慕う人々の多いのも、彼女の人柄の魂力と共に、こうした忍耐強い努力と教育的熱情によるところが大きいであろう。

□ある集いその足あと

国際ソロプチ ミス神戸

砂田 泰子

△国際ソロプチミス神戸会長▽



クリスマスパーティに希望の家の人々を招待した国際ソロプチミス神戸のみなさん

「国際ソロプチミス」——ちよつと舌がもつれそうな名前ですがこの国際的な組織は、一九二一年アメリカのオークランドという町で誕生し、爾来五〇年の間にヨーロッパ、オーストラリア、日本と世界的に発展を続けてきた職業婦人だけの社会奉仕団体です。

「ソロプチミス」という名称は「女性にとって最高のもの」を意味する二つのラテン語「ソロ」「オプティマ」から由来しています。日本で最初にクラブが結成されたのは、一九六四年五月、京都に於てのことで、現在のガバナー千嘉代子さんたちのご尽力で、次々に日本の各地で姉妹クラブが誕生し、現在、北は北海道から南は沖縄まで四十七クラブに成長し、なお誕生を続けています。

私達の神戸クラブは、一九七〇年四月に結成されました。初代会長熊谷道子さん、二代目会長秋保仁子さんのご苦勞で今日を迎えることができました。私が会長を引きついで一年半余りになりますが、只今会員数四十名、多からず少なからずの人数で、不馴れな私を皆様が助けて下さって、とても和気あいあいと楽しく仕事をさせていただいています。

クラブの構成は、十四の委員会から成っておりまして、毎月一回の例会が当番委員会の企画によつ

て行われています。目的は各々の勉強そして社会奉仕以外の何物でもありません。地域環境や会員数などによりクラブそれぞれの行き方は違っていますが、神戸クラブは人の和を大切に、無理をせず小さくとも誠意のあるお手伝いをさせていただくことを念願としています。財産といえるほどのものは何もないクラブですので、年に一度チャリティバザーを催したり、会員相互の不用品交換会などをしたりして資金を集め、災害、各福祉施設などへのお手伝いをさせていただいています。またシグマソサエティ(甲南女子大学の学生)も誕生し、若い方々にも熱心に社会奉仕のお手伝いをしていただいています。神戸は土地柄だけに外国からのソロプチミスの方々の訪問も多く、つい先日アメリカからのお客様が二人お見えになり、例会で私達の姉妹クラブであるオーストラリアのキャンベラクラブの方々への日本画のグリーディングカード作りを初めて筆を持つて一緒に描いていただきましたが、とても喜んで下さり、いささかながら国際親善を果させていただいたようなこともありました。

今後共感謝の気持ちを忘れずに少しでも地域社会のお役に立たせていただきますよう一歩一歩進みたいと願っています。

こうべに神戸らしい店を...

KOBE
NIKKEN



店舗装備のプロフェッショナル

(株)神戸日建

本社	神戸市葺合区御幸通3丁目2-20
〒651	☎ (078) 251-3525 (代)
東京	東京都杉並区成田東5-39(201号)
営業所	☎ (03) 393-1577 番



珈琲専門店「8番館」御影店



兼高かおる

GLOBAL LADY

美女、世界を翔ける

〈インタビュー〉

「兼高かおる世界の旅」このテレビ番組は今年の2月20日放映分で867回目。世界を翔け、きめ細かく世界の国の街を村を風俗を人間を生活を撮るまさにグローバル・レディの名にふさわしい女性、神戸生れである。

兼高 この仕事をしてると、渡る世間に鬼はないってすごく感じましたね。実にいい方ばかりで……例えばケネディ大統領ね。ああいう地位になった人というのは戦国時代の大將みたいなものでね、何か他の人とはちがうものをもってるんですね。それが魅力的ですね。いい方はかなりのなかでも、男性はいい地位について、まあ成功している時は魅力的なんですけれど、女性はあるポジションになると、どうしてでしょうか？ スグスグというのか不愉快な面が出てくるんですね。テコでも動かないって感じであったり、融通がきかなかったり。融通がきく女性ってというのはもうホンモノ的な感じがするんですね。この仕事をしていて習ったことはいろいろあるんですけど、人間についてなんですけど、偉くなる程人間は丸くなってくるでしょ。自然にそうなるものかもしれないけど私はそれでは間に合わないのでマネをすることを考えました。マネをしてみるとそれがそのうち板についてくるでしょうからね。女性が一生懸命仕事をするって堅い顔になってくるんですね。しかも男と女が同じ才能がある場合は、女性の方が何か抜きでてないと雇ってはもらえないでしょ。同じ才能だったらどうしても男性を雇いますよね。だから女性が一步上に出ようと思ったら普通以上に自分を使うんじゃないでしょうか。ですから顔がこわくなったり口のきき方がきつくなったり。私もやはり仕事をしている時はこわい顔してるかもしれないけれども、そうではないときはがらりとかわえるように努力していますね。努めてなくすっていうことが始めに必要でしょうね。職業婦人になって何とか女史といわれるようになってはならないとしますね。そういう傾向は女性には絶対にあつて、そうなくていくんだから気をつけ



なさいと知ることですね。職業をもってる女性の顔ってのはだいたいわかるでしょ。奥さんとかお嬢さんとかの顔とはちがいますからね。ある時ね、カメラマンが私の気がつかないうちに撮ってる写真を見ると、まるで女刑事の目つきなんでゾッとしましたの。いくら職業でもあれはいけない。カメラマンがだまって撮影したから発見したんですけど、直そうとしてもやっぱり仕事をしてる時はその目つきが出てきますね。そんな時にボンヤリした目、できない。そこがジレンマ。(笑) ですから少なくとも仕事を離れた時はなるべくポヤッとした顔つきになることを心がけないといけない。私の場合、ポヤッとしてるのが地だからかまわないんです。

★ダービーハットにアンブレラスタイルが闊歩する英国

——世界各国を訪れてみての印象はいかがですか
兼高 あの花組「世界の旅」は今年で十八年なんです。二十年まではやらせていただこうと思っていたんですけど、初めは二年間の予定で始めたんです。二年間で世界をぐるり、なんて思っていたんですけど、世界なんて回ってみるとものすごく知らなきゃいけないことがたくさんあって、だんだん内容を細かくしていったり、それと世界情勢がどんどん変化するから同じ場所へ何度も行かないことには現在のどこそこって紹介できないわけ。香港では十八年前はほとんどの人が中国服を着ていましたけれど、今はめったに見られないんですね。急激に変わりましたね。でも一番変化してるのが東京ですよ。東京と香港、バンコック、ペイリュートが変わりましたね。それも序々にじゃなくて、急激に色が変わってしまった

というような変化のしかたですね。例えばバンコックもかつては空港からホテルまでの間は、細い道があつて、その両側の河では農民が小舟に乗つてというふうにとても優雅でまことに極楽浄土^{じやくらくじやうと}で感じだったのが、現在ではその河も埋めてしまつて、並木も切つて自動車^{じどうしゃ}が走る道路にして建物もたくさん建っているんですね。私が初めて行つた時は、お湯も出ないようなホテルだったけど、今は冷房もきいて、もちろんお湯も充分に出る。当時は水のシャワーに蚊^か張^やだったんですよ。ペイルートでも空港の前にロバが死んでる風景も見られたのですけど、今は観光事業としてすごい勢いでホテルが林立し、英語が喋れる運転手なんか全然いなかったのに、今や相手をみてフランス語でも英語でも話すくらいになつていますね。やっぱり私は昔の方が好きですけどね。東京から出かけていくと、すごくちがつたところへ行つた感じだったんですけど、今はもう香港もバンコックもつまらない建物はばかりで、人間ももうなんていうか慙^{げん}懣^{げん}でなくなりましたね。以前だったら買物客に対して買つてもらうためなら何でもしたつていう態度があつたのに、今や全然ないんですね。買わないんだつたらどうぞ出てつてください。あなたが買わなくても他の人が買いますからつてな感じよね。日本でも気がつかないけれどそうなるかもしれないですね。その逆になつていないところとなると、観光客もあまり訪れることがなくて、その国自身もその地域にあまりお金を使わないということですね。インディオとか山奥とかになりますね。アメリカインディアンは変わつてしまいました。かえつて昔の文明国の方がある線とまつて、変わらないみたい。

私はイギリスが一番好き。英国系の学校を出たこともあるんでしょけど、私の出た学校に限らず、日本では何かと英国のことを勉強しますでしょ。だからイギリスの通りの名前だとか作家の名前だとかが全然耳新しいわけじゃないんですね。街並みとか服装とかも英語の教科書で見ているから、ロンドンへ行くとなつかしい感じがし

てくるんですね。未だにダービーハットをかぶりアンブレラ^{アンブレラ}を持つて、というスタイルで歩いていますからね。一世紀も二世紀も前に建てた街並みも変わつてなかりしますね。残念なのが観光客が多すぎて、こけむしたような素晴らしい昔からのビルディングにジーパンで長髪^{ながみ}なんてのがウロウロしてるのを見るとガックリきますよね。(笑)

観光客が多いとずいぶんムードをこわしますね。この間パリへ人が一番来ない時期に行つたんですけど、とても良かったですね。日本人は時をかわまわずグループで行つてるけど、他の外国人は少ないんですね。木の葉が道に舞うような頃で、仕事ではなかったので裏通りを一人で歩いたりしてね。とっても良かった。

——いつもはスタッフと一緒ですね。

兼高 あ、番組の取材は全部で三人です。三人が一番いい数ですね。自動車一台に全部積めるんですね。それで三人で何でもやるんです。人間は何億とある細胞のうち少ししか使つてなくて、本当は何でもできるんです。それを信じてなるべく何でもやりましょうつて。だから一日の時間が経つのがとっても早いですね。だんだんそうなつてきたのかもしれないけれど、私、汚いの割合に好きみたい。だから喜んで汚れることもやつてる。楽だしね。きれいにするつていう時間は短かい方がいいみたい。仕事に関してはあまり大変だつてことは感じないんですけど、この頃一緒に行く男の人二人があんまりいいかえしてこない。昔はスタッフ三人が同じ立場で議論しながらやつていたけど、今は私が十八年間やつていたというこで一目おいて、私に従ひすぎてしまふんです。それがかえつて不安になつてしまふんですね。やはり意見はいつてほしいし、私がしていることがおかしいと思つたらいつてくれればいいんですがね。昔は三人の頭だったのが今は一人の頭になつてしまふという点でのこわさね。こつちに寄りすぎたり、あつちにかたよつたりしてしまふということになつてしまふ。

★日本の料理法をとり入れるリヨンのレストラン

——これだけ世界をまわってらっしゃるといえるいろいろな料理が楽しめますね。

兼高 食べ物には文化ですからね。私は割合世界じゅうどの料理でも好きで、その土地その土地で楽しみます。香港の味が落ちたのはガッカリ。台湾が美味しい。中国料理は南の方が美味しいですね。シンガポール、バンコック、ボルネオとか、邪道かもしれませんが、スパイスがきいててね。私は辛い料理が好きですから、インドの料理も大好き。日本で食べるインド料理とは全然ちがうの。インドで食べる時はスパイスをその場でけずったりつぶしたりしてふりかけてね。日本のはやっぱり日本のインド料理なんです。日本の朝食でもご飯を炊いたりおみおつけを作ったり大変なんですけど、インドでも大変。奥さんが小さな台所にしゃがみ込んでスパイスを一生懸命つぶして香りを出してね、一つひとつ料理を作って食べさせるんですね。大変ですよ。レパノンの料理も良かった。海にも近いし、気候がよくていい野菜がで

る。しかも料理に関しては美味しい料理を作らせて、美味しくないとかツツクの首を切ったというぐらい厳しかったという話が残っているくらい。それからワインがよかった。料理にヴァリエティがあつて美味しかった。文化があると美味しいものを追求するんですね。お腹がすいているとただ満たせばいいってことだけど、ある程度の余裕があると文化が発達し、食べ物の追求が始まるわけね。先日リヨンのレストランへ取材にいったね。そこでの新しい料理法っていうのは昔のようにはっぱいソースを使わないの。材料の味を生かすという日本の料理法なの。ですから豆でも煮つめたりしたのを、サツとゆでるだけでその味を生かすって方法。全く日本料理のやり方ですね。料理に限らず日本にもたくさんいいものがあるんですよ。それなのに日本ではやたらむこうのものがいいと信じてしまつてマネをしちゃう。これでもいい時もありますけれど、何でもがいいわけではないからある時期がくると自分で考えるべきですよ。食事に關しても日本の文化はかなり高いのではないかと思うんです。フランスといえは世界的に料理の神様みたいにいわれていますけど、それが日本の昔の料理法に戻り



フロリダ海に遊び、オーストラリアの家庭で料理を習い、ミルウォーキーで乾杯ノ 大変なお仕事ですよ。

つつあるというのは、料理のことだけに限らず日本にとつていいことではないかって気がしますね。しかしそれにしても東京に住んでると、昔ほどに日本の野菜や魚は美味しくないですね。そのために日本では味が落ちてきてソースという人工的なものでカバーしてるのかもしれないですね。野菜なんかアメリカの方がずっと美味しいですね。イギリスは、みんなは食べ物は美味しくないっていうけれど、私、美味しいフランス料理をこの頃ロンドンで食べるんです。ロンドンはね、私は何かにつけて好きなんですけど(笑)料理は朝から楽しみにしてるんです。ホテルの朝の食事は、ティーとマツシユールムとトマト。それからイギリスのベーコンね。これは日本にあるベーコンとはちよつとちがうの。本当に朝から美味しいの。空気がドライだからなのかしら、紅茶がとっても美味しいのね。一方アメリカはアメリカで料理が良くなりましたね。二十何年か前に行った頃はどうしようもなくまずかった。サラダにしてもメチャクチャに野菜を切ったサラダで、日本ででもそんなサラダがなかったんですけどね。トマトにしてもきれいに切ってならべてあった。だいたい日本はきれいに仕上げるのかもしれないですね。そんな鳥のエサみたいな盛りつけだったから私は食べなかった。それに当時は日本の野菜の方がずつと美味しかったんですね。今はアメリカの方がはるかに美味しい。世界ってこんなふうに変化するから昔のことをいってられない。だから私が忙しいわけね(笑)。

★人間って大らかに育たないといけないのよね

——「世界の旅」で十八年間探ってこられたのは世界の文化ということですね。

兼高 そう。あのね、人間が目的だったのです。人間っていうことはすべてですけどね。それにはもちろん食べ物が入りますね、文化の一部ですから。人間というものを調べていくといろんなことがわかってきますね。一番

始めは自然ですね。それがゆえにこういう土地であり、だからこういうものができて、だから人間がこんなふうになってというようにね。そしてさらに自然がこうだからこういう宗教が生まれ……ってね。人間っておもしろいから、一生かかっても飽きない研究の対象ですね。

——男性の方がおもしろいですか。

兼高 どちらかといえどやはり男性の方が好きですね。女性もある程度まではおもしろいけれど、そのあとはもうつまらないみたい。まず今の段階では、女性話題が少ないし、あまりにも計算づくね。夢がないですね。男性はいくつになっても少年みたいな夢をもっている。うらやましいですね。私も女性だから、夢がなくなり想像力がだんだんなくなるのね。あまりに現実的になってしまつて、一生懸命変えようと思つてもダメ、無理なんです。だからなるべく男性と話をするんです。男性は五十になつても六十になつても素晴らしいことをいいますものね。この人、妻子がいるのかしらって思つてしまうくらい(笑)。

——世界じゅうをまわつてらしたら、日本はこんなふうになればいいなあってお感じになることがあるんじゃないですか。

兼高 私ね、日本ももう少し足が地についたような経済を考えないとダメだなんて思いますね。ぜいたくになつてしまいましたね。その点話だけで実際の生活はよく知らないんですけど、多少なりとも関西の方がムダをしないでしょ。人間としての文化程度が関西の方が高いと思いますね。おごりがありませんね。東京人ってのはすぐにうわつたにのるのよね。実をとらない。関西の方は人間の文化の歴史があるので地に足がついてると思うんです。ムダをしないですよ。関西の人のことをケチつていいんですけど、ケチつていうのと浪費しないというのとは別ですね。食べる物でも、食べないでいるのではなく、食べる物をムダにするなっていうことであつてね。外国と比べると日本人はとて水もムダにしすぎますね。私

はもうお金を出して水を飲むくせがついてしまったけれどね。日本のレストランではオーダーをとる前にもう水を持ってきますでしょ。それを飲まないかもしれないしまた飲んでも飲まなくてもそのコップを洗うのにまた水を使うし、いっそのこと水を置いて好きな人だけが飲むというふうにした方がいいと思うんです。すぐに水をついでくれるというのは、過剰サービスですね(笑)。いまに日本も水で泣きますよ。日本の今のような消費経済にはむかない話かもしれないけれど、消費経済なんていうのは資源のある国がやることで、日本は何でも買っているんですから、ムダに使うということとは自分の首をしめてることに等しいわけでしょう。人間は万物の霊長だっていばっているけれど地球に間借りさせてもらっている生き物の一つなんですよ。だから地球の資源を大切に使用してもらって他の動植物と上手に同居することを人間は考えなければいけないんです。人間ってのはとても破壊に向かうのね。いつも殺し合っては破壊してしまっているんだから、もう少し地球の間借人としてみんな上手に少しずつ使わせてもらおうというふうにと考えるといいと思うのね。ことに日本なんかこの狭い国土にこれだけの人間がひしめきあっているんですよ。この頃は畑までもつぶしていますでしょ。いざなんかあった時に困りますよ。日本へは食糧を輸出するのはいやだなんて世界じゅうからいわれるともう日本は食べ物から困ってしまう。それに日本はなかなか気がつかないだけでなく見せないような話を、教育をするわけよね。日本は金持ちになったとか、消費は美德だとか、国民をたぶらかせているんですよ。話は変わりますが、昔ね、東京から神戸へ行くのには夜行列車だったんですね。東京に昼間いて朝起きると神戸でしょ。神戸に着くと異国でした。東京の女性は野暮ったく見えてね、神戸へ行くのととてもモダンでした。ちよっと簡単な洋服を着てもそれがとってアカ抜けていてさっそうとしてるんですよ。私も

うんとお金があれば神戸に家を持ちたいですね、周りに家がたくさん建たないところにね。海が見える大きなペランダがあって、そこで朝食をとるって素晴らしい。アメリカのサンダーバレーの住宅をこの間取材したら昔の神戸を想わせるのね。海があって街があって、山腹の家からは海が見えるようになってる。百万ドルの夜景っていうけれど、そこもそうでね。むしろでは毎晩クリスマスみたいだっていうんです。英国人が作った街ってのはどこでもとても素敵なんです。日本だったら神戸。それからシンガポールや香港。それにボルネオにも素晴らしい街があるの。十字路だけでなくて、こねこねとした道をうまく作ってある。シンガポールの街ってきれいでね、ゴミひとつ落ちてない。ゴミを捨てると五百ドルの罰金。神戸もそのようなモデルタウンになってもいい街です。他の街と差をつけられいいんです。そうすれば他の街もマネをして日本じゅうがきれいになるんです。

それとあまり人口を増やさないことですね。他の土地から入ってくる人たちは生まれ育った土地よりその土地に対する愛着が少なくてしょ。だから大きな庭がある家でも、その土地を貸したり売ったりしてそこに家が建っていくんです。お金になれば自分の生活環境を犠牲にしてもお金が目くらんでしまうのね。今の日本人ってのはやっぱり貧乏人なのかしら。豊かにならないとね。見晴らしの良さなんてお金では買えないのにな。人間ってやはり大らかに育たないといけないんです。



神戸生まれ、東京・香蘭女学校米國ロサンゼルス・シティカレッジ卒業後、海外旅行体験記をジャパントイムスに投稿し好評を博す。昭和33年スカンジナビア航空主催世界早回りコンテストに東京—ローマ—アンカラ—ジネヴ73時間9分の記録を樹立。34年TBSテレビ「世界の旅」の取材並びに解説者として世界をまわる。同番組に対して内外国より賞を受ける。37年日本放送作家協会企画賞、43年芸術選奨新人賞を受賞。日本ペンクラブ会員。